

1. 新山口都市核 未来都市構想の提言

山口市は自然や歴史、文化、教育環境にも恵まれ、近年は人口減にも歯止めがかかるなど、継続的な改善発展が見込まれる街です。今年7月にJR新山口駅北にオープンした産業交流拠点施設・KDDI維新ホールの稼働により、新山口駅周辺は新たなビジネスの到来と更なる人口集積が期待されています。南の核である『小郡都市核』と北の核である『山口都市核』は、お互いがお互いの役割を認識し、お互いが刺激しあい両輪となって機能していくことで、市全体のさらなる発展を見込むことが出来るのではないかと考えています。

山口商工会議所では、本年6月に山口都市核・山口市中心市街地の未来都市構想を策定し、「一人ひとりが輝き、豊かな生活を実感できる街へ」をテーマとして、50年後の山口市の姿を視野に入れた提言を行ったところです。

この度、当会議所『新山口都市核づくり委員会』では、山口都市核エリアとともに小郡都市核エリアを高機能都市集積重点エリアと考え、30～50年後の未来の姿について議論と検討を重ねて参りました。山口市全体の人口が合併直後の19.9万人から、直近では推計19.3万人へと微減する中でも、小郡都市核エリアの人口は増加が続き、合併直後の2.3万人から、現在は2.6万人になりました。このエリアが山口県ナンバーワンのビジネス街へと成長し、県央経済のリーディング役を担うには、さらにもう一歩踏み込んだまちづくり、大胆な未来都市構想が必要なのではないのでしょうか。

山口都市核は行政や文化、歴史、教育、観光の充実を担う役割を持っています。小郡都市核は交通結節点である優位性を生かし、経済的な発展をリードしていく役割があります。小郡都市核は、ここを拠点に遠距離通勤を可能とする利便性の高い住宅機能と職住近接の機能を満たす街として整備を行う必要があります。経済活動の充実に寄与する新しいビジネスエリアとして成長していくことで、2つの都市核がもたらす好影響は山口市だけでなく、県全域に及ぶ事でしょう。

私たちが、未来の山口市民に繋いでいくのは、山口都市核とともに小郡都市核の都市基盤であり、50年後を見据えた都市インフラをも含めた都市整備を着実に進める事だと思います。小郡都市核エリアの未来都市構想を策定、街の特性を生かして魅力の向上を図るだけでなく、時代に即し、人々が誇りと夢を持って暮らすことが出来るまちづくりを、ここに提言します。

2. 新山口都市核 未来都市構想

【テーマ】

いいこと見つかる つながり始まる 暮らしやすいまち

(1)景観について **早期改善**

新山口駅を利用し山口を訪れた方が、最初に目にするのは駅周辺の景観。山口県、山口市の印象を決める重要なエリアです。安心して暮らし、経済活動を行えるように整備を進めることが求められます。早急な対応が必要と考えられ、山口都市核との連動性を持たせることで、一つのまちとして、山口をもっと知りたいと思われるような魅力の発信が求められます。

- 新山口駅南口・軒裏の改修
- 新山口駅南口・地下通路の改修
- 風の並木通りの街灯の適正化（明るさ、時間、設置数）
- 大正通り・明治通り 一方通行進路方向の変更
- 唐樋川の植樹(桜、紅葉)、ウッドデッキなどの設置
- 公園の樹木、街路樹の適正な管理(定期的な伐採)

(2)新山口駅直結型の建造物（駅南）

コンシェルジュのような役割を持った、新山口駅直結型の建造物をつくることで、利便性向上だけでなく、その場所に行けば、山口県内、山口市内の様々な情報が手に入り、ホスピタリティの向上を図ることができます。

[RF] 芝生スペース(ドッグラン、バーベキューガーデン、フットサルなどの体験と集いの場)

[3F] 産業集積フロア(成長産業「ソフト開発」等)、ブレインワーキング(グループ本社や県央本部等の集積))、コワーキングスペース

[2F] 県内全域の物産・飲食店、観光、ビジネス(農商工)に関する相談窓口、定住相談窓口、複数のカフェ ※新山口駅南口直結

[1F] タクシー、バスターミナル、駐車場

(3) ガーデンシティの整備

新山口駅北口エリアの近くに、土地活用の面からも効率性に優れるマンションエリアを造成、容積率の規制を緩和して400%以上とします。その中心部に山口中央公園のような芝生公園をつくることで、普段は憩いの場として、時にはイベント利用もできる場を提供します。都市核の中心部でありながら環境に配慮した整備となります。新幹線停車駅前に緑豊かな公園を配置し、低・中・高層のマンションによって形作られるガーデンシティは、駅利用の方だけでなく、来街者に対しても、この地の精神的豊かさと安らぎを伝え、定住人口の増加に寄与します。

(4) 住宅・オフィスエリアの整備

新たな雇用が生まれることで増加する定住人口に対応するため、広い土地を生かし、居住環境やビジネス環境に配慮し、それぞれの目的に応じたエリア整備を行う必要があります。

- 土地が広く戸建てでゆったりと暮らしたい方向けの住宅エリア（嘉川や陶方面）
- 企業の中核機能や、広いオフィスを希望する事業者向けのエリア（新山口駅南口）
- 職住近接を希望する事業者、居住者のためのエリア（新山口駅南口）

(5) モール施設・新産業物流拠点

交通結節点である強みを生かして、山口県内全域を商圈とする全天候型で非日常的な体験を楽しめるモールを誘致、更にJ1対応サッカースタジアムを新設することで、新山口エリアへの滞留時間が増え、地域全体への経済波及効果を高めます。榎野川への橋の新設は、名田島、陶方面への経済波及と利便性向上を図ることが出来ます。また、地理的な優位性を最大限に生かし新たな産業物流拠点として利用できるエリアを整備し、民間活力の導入を促します。

(6) その他

土地の有効活用として、新山口都市核エリア全体を対象とした駐車場の再編整備を促進、駐車場不足に対応できるようにします。

提言から実現へ

当委員会では、新山口駅エリアを中心とした小郡都市核の未来に焦点を当てて地域づくりを行い、県下ナンバーワンのビジネス街の実現だけでなく、今以上に人が集い新たな可能性が生まれ、次世代に花開いていくことを目指し、上記の提言をまとめました。

この提言が、その契機となり、早期に取組が出来る事項については、出来るだけ速やかにご対応いただきたいと存じます。山口都市核と小郡都市核が両輪となり、ひとつの街として大きく発展し、都市間競争に埋没することのない魅力あふれる街へと成長していくことを希望します。

令和3年11月
山口商工会議所
新山口都市核づくり委員会